

令和 7 年度第 1 回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会 会議概要

- 日 時:令和 7 年 7 月 25 日(金曜日)10 時 00 分～12 時 05 分
- 会 場:鶴岡市役所別棟 2 号館 21・22・23 会議室
- 会場出席者:鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会委員 14 名
- 市側出席者:市民部長ほか鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会幹事、事務局 25 名
- 公開・非公開の別:公開
- 傍聴者の人数:2 人

(10 時 開会)

1 開 会 (全体進行:コミュニティ推進課長)

2 委嘱状交付

3 挨 拶 (挨拶:市民部長)

4 委員紹介

5 委員長、副委員長の選出について

林 雅秀委員を委員長に、宮田廣喜委員を副委員長に選出

(議長:委員長)

6 第 3 期鶴岡市地域コミュニティ推進計画について…資料 No.1

(事務局)資料 No.1 を説明

(E 委員)

パブリックコメントは、どのような方法で周知するのか。インターネット、広報、または別の方法で行うのか。一般的な方法では、若い人は意見を出しにくいと思う。学校を通じて子どもにも周知する等の予定はあるか。

(事務局)

現在のところ、鶴岡市のホームページで周知を図る予定である。ご意見を踏まえ、周知方法について検討する。

(L 委員)

パブリックコメントというのは、公式発表のことか。

(事務局)

パブリックコメントは公式発表ではなく、多くの市民の方に意見を求める方法である。

7 報告・意見交換

(1)市のコミュニティ施策について…資料 No.2、資料 No.3、資料 No.4、資料 No.5

(2)住民自治組織によるコミュニティ活動の調査結果 詳細版…資料 No.6

概要版…資料 No.7

評価 …資料 No.8

(3)第 2 期鶴岡市地域コミュニティ推進計画に掲げる

行政施策の取組状況(令和 6 年度及び計画期間)…資料 No.9

(事務局)資料 No.2～9 について説明

(A 委員)

ふり返しシートが未提出の町内会があり、昨年より提出率が落ちているのが気になる。町内会連合会でも「貴重な地域のデータになるため、提出してほしい」と話をしている。未提出の町内会には催促し、100%の提出率を達成してほしいと考えている。

地域ビジョンについては、私の地域でも 3 年前に策定した。「地域ビジョンをつくるぞ」と構えすぎずに、今までの議論をまとめる形で作成することができた。アドバイザー職員制度もあるが、やろうと思えば、自分たちで地域ビジョンを作成できるのではないかと感じている。また、地域ビジョンを実現するため、まちづくり未来事業補助金を活用している。自主財源だけでは、中々取り組めないのも、地域づくりを進めるためには、積極的にまちづくり未来事業補助金を活用することが効果的だと思う。

(B 委員)

西郷地区では、少子高齢化が進み、子どもが極端に少ない。若い夫婦は、生活の利便性を求めて鶴岡市街地に引っ越してしまう。地域づくりや活性化のためには、若い世代の参加や意見が重要であり、事業を継続していくにしても大変だと思っている。

西郷地区では、運動会や夏祭り、敬老会事業が継続的に行われており、参加人数も減っていない。これらの活動はまだまだ活発であり、今後も様々な取組みを進めながら継続できると思う。

女性の役員の登用については、西郷地区で町内会の役員に女性が就任した例は歴代 1 名のみだが、今後は女性の役員の登用を進めながら、地域の活性化を目指していきたいと考えている。

(C 委員)

東栄地区自治振興会では、地域ビジョンの策定を進めており、計画期間を令和 8 年度からの 5 年間で予定している。小学生から大人までアンケートをとり、その結果を基に策定していきたいと考えている。

地域の最大の課題としては、空き家対策、施設の老朽化が挙げられる。この課題について、市のアドバイザー職員等と相談しながら、解決していきたいと考えている。

(D 委員)

羽黒地区では、4 つの地区すべてが地域ビジョンの策定を完了している。泉地区では、3 年前に全戸アンケート等を基に地域ビジョンを策定した。しかし、地域ビジョンは単に計画の策定だけではなく、策定した後どのように取り組んでいくかが大切だと思う。

他地区の地域ビジョンもホームページで確認できるようだが、住民が他地区の取組み等々を知る機会を増やしてほしいと思う。また、予算の都合上、事業に取り組めない地域もあるの

で、補助金の活用についての周知 PR をさらに進めていただきたい。

泉地区でも少子高齢化やコミュニティの力の低下が顕著に現れている。参加者の募集も苦労しているが、SNS や他の方法も交えながら取り組んでいる。若い世代だけでなく、その上の年代もスマートフォンやメールを活用して申し込んでくれる。これらの手段を強化していきたいと思う。

若手の育成については、地域課題で出会いの機会と場所の提供が挙げられたが、そういう場所がない、機会がないという意見が多くあり、課題が解決できるように取り組んでいきたい。

少子高齢化や地域コミュニティの力の低下に特効薬はないが、様々な事例を積み重ねて、次の世代の育成等に取り組んでいくことが必要だと思う。

(E 委員)

資料 No.8 の櫛引地域の取組みの回答について、他の地域と比較すると、取り組んでいる率が低いのが気になった。地域の方々に話を伺うと、実際は非常に真面目に取り組んでおり、その真面目さが厳しい自己評価につながったと考えている。センターの職員として、地域の皆さんの話を聞き、役立つことをしていきたい。

また、生涯学習を通じた地域づくりに関して、資料 No.9 で「生涯学習推進員研修会の参加希望が少ない」とのコメントがあった。私は生涯学習の担当しており、開催案内を目にしているが、講師が同じ方であることが多く、内容がマンネリ化しているのではないかと感じる。生涯学習推進員は 2 年交代であるが、代わらず更新してくれる方もおり、違う講師の意見を取り入れる、あるいは内容を変えてみる等、生涯学習推進員研修会の内容を工夫してもらいたい。他地域の人、生涯学習推進員と触れ合う機会になるので、内容について検討いただきたい。

(F 委員)

朝日中央地区は、5 つの個性豊かな地区が集まった地域であり、各地区が互いに尊重し合いながら運動会や敬老会等の行事を開催している。今後も地区同士の情報交換・共有を手助けし、活動をサポートしていきたい。

朝日中央地区では、最近、クマの出没が頻繁に報告されている。昔と比較して、共同作業での草刈り範囲が狭くなったせいか、クマの寝床が近くにあったということも聞いており、子どもたちが安全に遊べるように、住民が安心して生活していけるように、できることがあるか考えたい。

(G 委員)

他地区では地域ビジョンを策定しているが、私の地区では住民の意識がそこまでいつていない。とにかく人がおらず、働いている人は役員になりたくない、役員をやられるから総会には出席しない、といった声も聞こえてくる。住民の意識を変えていけたらと思う。

(H 委員)

アドバイザー職員制度について伺いたい。以前は地区担当職員といい、災害発生時の避難所の開設運営を担当していたと思う。その後、アドバイザー職員制度が設けられたと思うが、地域ビジョンを作成するための制度なのか、アドバイザーは社会福祉士、消防設備士といった専門的な資格を持った職員が担当するのかお聞きたい。

また、国では防災会議等において女性の登用を 3 割以上とする方針があるが、中々進まない。本日の会議では 5 名の女性が参加しており、3 割を満たしている。今後も女性の感性が必要なので、行政でも各役員等へ女性の登用を十分考えていただきたい。

また、事前に資料は配布されているので、報告時間を短縮し、意見交換を主体とした進行にしてほしい。

(事務局)

防災関係においては、現在も地区「指定」職員を配置している。地区指定職員は、発災時にいち早く避難所に向かい、避難所開設を行うこととしている。以前あったのは地区「担当」職員制度であり、自分の担当地区を持ち、その地域コミュニティと一緒に事業に取り組むという制度であったが、中々地域の要望に応えられず、特に地域で求める人材とのマッチングが難しいところがあった。現在は、アドバイザー職員制度に変わり、まちづくり未来事業にかかわらず、地域の課題の解決にアドバイスできる職員を派遣するという制度になっている。

(I 委員)

ふり返しシートに基づいた調査報告については、膨大な情報から各地域への配慮が感じられ、非常にありがたい資料だと思う。広域コミュニティ化に向けた検討については、議論が進まないようだが、疎外要因について伺いたい。

(事務局)

広域コミュニティ化への課題としては、小学校区で地域コミュニティが培われてきた地域と、単位自治組織である集落単位で活動してきた地域とでは、成り立ちに違いがある。小学校区の中で複数の集落で地域活動を行う習慣がなかった地域では、現在も広域化が進まない状況にある。しかし、今後、少子高齢化、人口減少が進み、これまで通りの集落では事業ができない、支えることができない、そういう時代が必ず来るので、広域コミュニティ組織がどのように地域活動を補完していけるかということは、広域コミュニティ組織がない地域についても課題として挙がっている。今後も考えていきたい。

(J 委員)

自分が住んでいる町内は、町の半分がアパートで、半分が持ち家である。持ち家の人が引っ越ししても大体すぐに売れて、新しい人が住んでくれる。そのような状況のため町には空き家がほぼなく、空き家の問題はない。

(K 委員)

事前に資料をいただき、読ませていただいているので、もう少し委員の皆さんの意見が聞き取れる形式の会議にしてほしい。

女性役員の登用については、上郷地区にも各女性で自治振興会長や自治会長を務めた方はいない。アドバイザー職員制度等も活用し、他の地域ではこういうふうに女性役員が活躍しているといった情報提供や女性役員の登用の仕組みづくりを支援していただけるとありがたい。

また、お金をかけないとできないというのではなく、地域にある資源をどう活かすかということにウエイトを置いて考えることが大事だと思う。

役員の成り手がいないという意見もあるが、人材はいると思うので、気持ちの問題ではないかと思う。役員になってみたいとか、地域を盛り上げたいという人をどうやって増やしていったらいいのか等について、市からアドバイスをいただきながら地域活動のレベルを上げていくことで、地域づくりに協力してくれる方が増えてくるのではないかと思う。そういった組織づくりへの支援に力をいれていただけるとありがたい。

(L 委員)

資料の構成について、ふり返しシートをまとめた詳細版(資料 No.6)とその概要版(資料 No.7)および評価(資料 No.8)が別々にあるが、これらを一冊にまとめるとわかりやすくなると思う。

ふり返しシートの記入については、町内会の評価につながると思うと、交付金を受け取っている立場で、良くない意見を書いては悪いと考える人が多いと思う。大事な資料として使用していることがわかったので、もう少し書きやすいように説明を加えてもらいたい。

(委員長)

最近いろいろな政策で Evidence Based Policy Making(以下 EBPM)と言われることがある。ふり返しシートは、その EBPM の手法を使って政策を検討する上で有効な資料だと思う。そういった手法に基づき、この政策は有効だった、この政策はそうでもなかったと評価することができると思うので検討いただきたい。

また、皆様の意見をまとめると、少子高齢化が進んでいく状況を踏まえて、第 3 期の計画を考えていくかが重要であると思う。

委員会の進め方については、市の方からの説明も含め、議論や参加者の意見をより反映させる方法についても検討が必要かと思う。

(4) その他

特になし

8 閉会(12時 05分)

(コミュニティ推進課長)